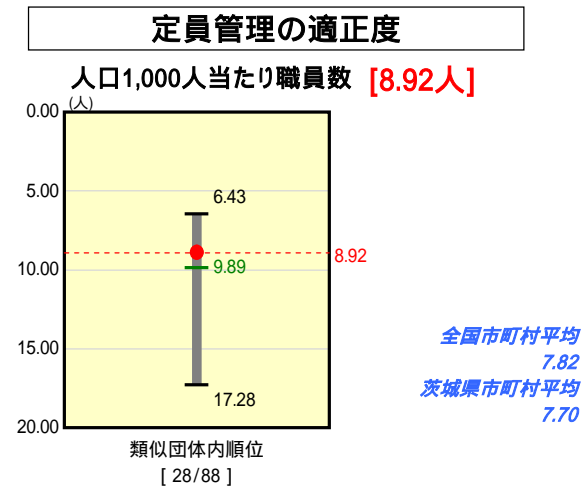
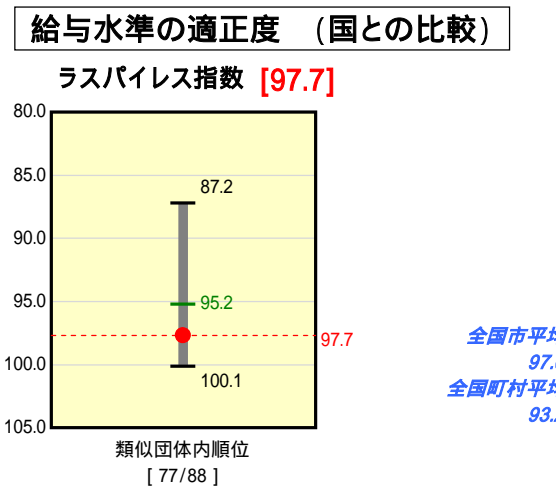
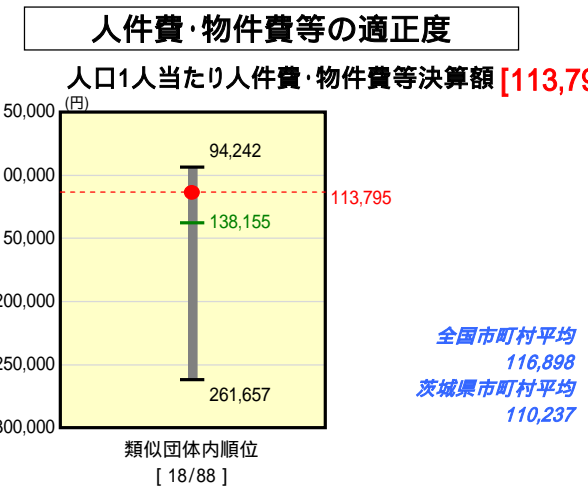
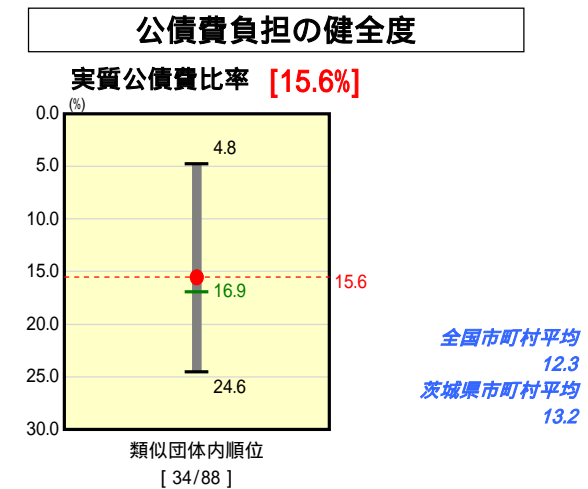
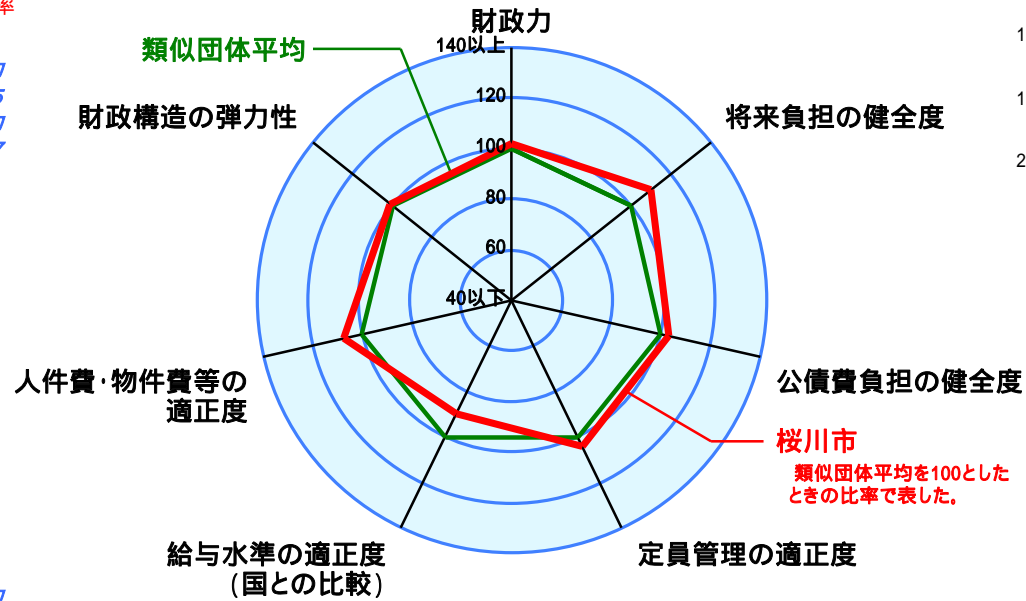
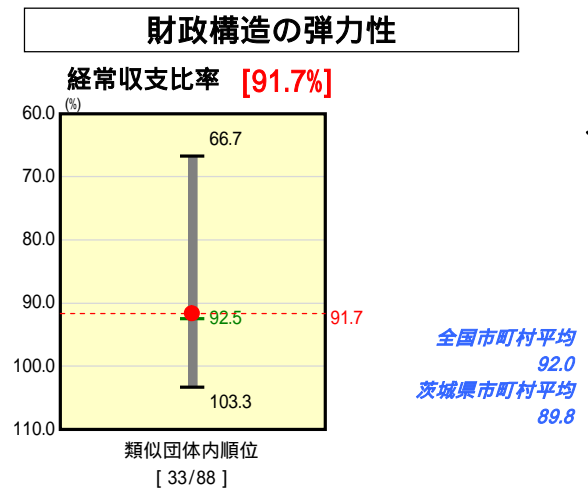
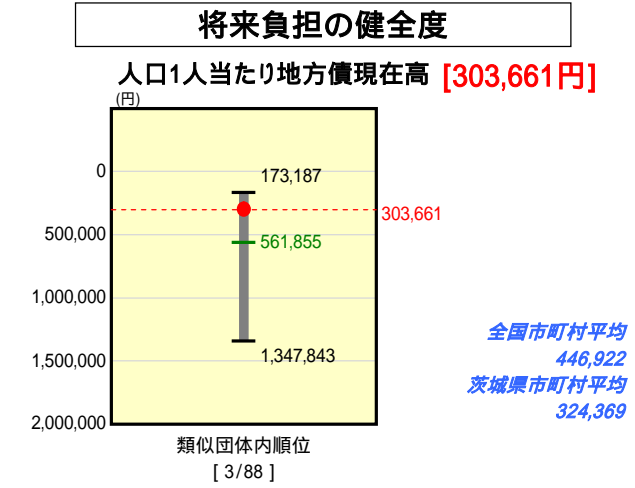
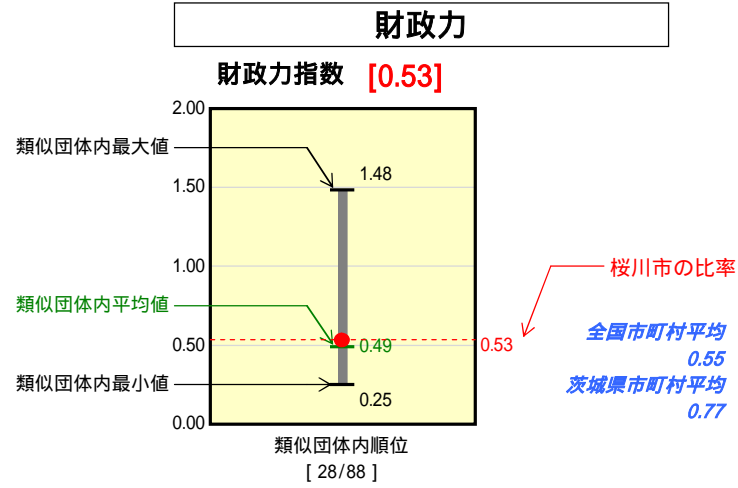


# 市町村財政比較分析表(平成19年度普通会計決算)

## 茨城県 桜川市

人口	48,629人	(H20.3.31現在)
面積	179.78	km <sup>2</sup>
歳入総額	16,951,516	千円
歳出総額	16,177,346	千円
実質収支	714,682	千円



類似団体とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類した結果、当該団体と同じグループに属する団体を言う。  
平成20年4月1日以降の市町村合併により消滅した団体で実質公債費比率を算定していない団体については、グラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。  
ラスバイレス指数及び人口1,000人当たり職員数については、平成19年度地方公務員給与実態調査に基づくものである。なお、平成19年度中に市町村合併を行った団体については、当該項目に係るデータのグラフを表記せず、レーダーチャートを破線としている。

人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

### 分析欄

#### 【財政力指数】

基準財政需要額の減少と市町村民税所得割や固定資産税などの増による基準財政収入額の増加により昨年度に対して0.03増加しており、類似団体の数値も上回っている。今後も行政評価などにより徹底的な歳入の見直しを実施するとともに税収の徴収率向上により歳入の確保を図っていく。

#### 【経常収支比率】

平成19年度は91.7%で昨年度より1.8%改善しており、類似団体平均と比較しても0.8%下回った。全体的に経常経費は削減されているが、収入において経常的一般財源が減少しているため、今後滞納整理の強化などにより徴収率の向上を図るとともに行政改革により経常経費の削減を図っていく。

#### 【人口1人当たり人件費・物件費等決算額】

現在人件費の適正化を目指して職員を削減しているとともに物件費の削減も実施しているため類似団体平均に対し低くなっている。今後も人件費及び物件費の抑制に努め茨城県市町村平均を下回るよう削減を図っていく。

#### 【ラスバイレス指数】

給与体系の見直しは実施済みであるが、類似団体平均を2.5%上回っている。今後は給与の適正化を図っていくとともに類似団体平均を下回るよう見直しを実施していく。

#### 【人口1人当たりの地方債現在高】

近年大規模事業の実施が少なかったため類似団体平均を下回っている。しかし、今後合併特例債を活用した事業を実施していくことになることから、他事業における地方債の発行額を抑制し、類似団体平均を上回らないよう努めていく。

#### 【実質公債費比率】

類似団体の平均値は下回っているが、15.6%と昨年度より0.8%増加しており、今後公共下水道事業の進展に伴い増加は避けられない状況である。そのため、事業計画の見直しを実施し極力新規発行を抑制し、比率の上昇を抑えていく。

#### 【人口1,000人当たりの職員数】

現在集中改革プランにより計画的に職員数の削減を行っているため、類似団体の平均を下回っている。これからも行政サービスの質を低下させないよう工夫しつつ適正な定員管理に努めていく。